

田原市教育委員会第7回定例会会議録

1 開会 平成25年7月19日 午前10時00分

2 閉会 平成25年7月19日 午前11時20分

3 会議に出席した委員

山本栄子委員長、渡邊峰男委員、山本明子委員、
金原真人委員、嶋津隆文委員

4 会議に欠席した委員

なし

5 会議に出席した職員

教育部長

前田和宏

教育部次長兼教育総務課長

中村文紀

給食センター所長

原 猛

学校教育課長

山本克仁

生涯学習課長

渡会照一

文化財課長

河辺勝郎

図書館長

豊田高広

6 議事日程

別紙のとおり

田原市教育委員会第7回定例会議事日程

日 時 平成25年7月19日(金)

10時00分

場 所 北庁舎2階 201会議室

- 1 議事録署名
- 2 教育長報告事項
- 3 議案
 - (1) 田原市博物館協議会委員の任命について
- 4 報告事項
 - (1) 教育委員連絡報告事項
 - (2) 学校規模の適正化について
 - (3) 田原市中学校総合体育大会の結果について
 - (4) 小中学校への寄付について
- 5 その他

開 会 午前10時00分

山本委員長

初めに、会議規則第14条第2項の規定により、議事録署名者の指名をさせていただきます。

今回の署名者として、渡邊委員と山本明子委員のご兩名を指名させていただきますのでよろしくお願いします。

議題に先立ちまして、教育長報告事項をよろしくお願いします。

教育長報告

嶋津教育長

おはようございます。

この暑い中を小牧と阿智村に行っていただきましてありがとうございました。それは表向きで楽しゅうございました。ありがとうございました。

きょうは1つ、大きな決定をしていただくことになっておりまして、この間、学校の再編成をしてきて、3回意見を聞いてきた。それを踏まえて、新しいたたき台というか集約を教育委員会としていただいて、もう一度、住民や地域に打って出ると。その節目の内容を決めていただきたいというのがあります。

それからもう一つは、これが終わってから赤羽根のサポートセンターに行くのですけれども、あそこの組織を自分としては、1つのいじめ対策の目玉にしたいというように思っておりまして、そういう点で皆さんのほうからいろいろ意見交換をしていただいて、資料を出していただければありがたいと思っております。

そんなこんなであります。ひとつよろしくお願いします。

それから、この前、野田に行きまして、野田の青少年夏の大会というのがおもしろくて、表彰するんですね。小学校、中学校、一般の部何々という家族へのメッセージを。「洗濯物はお母さんのにおい。とても温かい」とか、そういうメッセージで家族が交換する。それをみんなで表彰し合うというのをやってみまして、それに出ました。渡邊さんのところの次女、いい文章を書いて表彰されてました。それを表彰するのがお母さんだったりしてね。そんな楽しい思いをさせていただきました。ありがとうございました。

山本委員長

ありがとうございました。

ただいまの教育長報告事項につきまして、ご質問等がありますか。

(「なし」と言う者あり)

山本委員長

それでは議案に入りたいと思います。

議案第12号 田原市博物館協議会委員の任命についてを議題といたします。

事務局の説明をお願いします。

文化財課長

文化財課からお願いいたします。

議案第12号 田原市博物館協議会委員の任命について、博物館協議会委員を別紙のとおり任命するということでございます。

博物館協議会委員は、委員が6人以内で任期は2年でございます。

学校教育、社会教育、家庭教育、教育の各分野から選任をお願いしまして、あわせて学識経験の中から選出をお願いするものでございます。

はねていただきまして、候補者名簿ということでございます。上から横田克彦さん、この方は学識経験の中からということで、博物館友の会の会長さんでいらっしゃいます。再任ということで、再任されますと3期目ということになります。

それから次の2段目、山本達夫さん。社会教育、文化協会の会長さんということで選任をさせていただきたいと思っております。再任ということで2期目に入ります。

それから3段目、柴田ひろ子さん。学識経験、家庭教育ということも含めて再任でお願いいたします。2期目になります。

中尾利之さん。学校教育、赤羽根小学校の校長さんでいらっしゃいます。再任ということで2期目となります。

村田眞宏さん、学識経験、愛知県の美術館長さんでいらっしゃいます。再任されますと4期目ということになります。

6段目、乾欽也さん、学校教育、高校の部でございまして、渥美農高の先生でいらっしゃいます。この方は新任ということでお願いをしております。任期はこの7月30日から2年後の7月29日までの2年間ということでお願いをしたいと思います。

以上でございます。よろしく申し上げます。

ありがとうございました。

説明は終わりましたが、ご質問等がありましたらお願いします。

(「なし」と言う者あり)

私から言うのも何ですが、これは一応ホームページとか、この経緯は載らなかったですか。要するに何が言いたいかということ、この名簿で生年月日とか住所とか入っていますね。例えば、個人情報とか、女の人にとっても余り生年月日を出してほしくないなと思ったりすることを考えると、余り生年月日を書く必要はないかなというのが1つ。それから住所も田原市赤石とか亀山とか、そのぐらいにするのが1つ。それからもう一つ、分野も学識経験、社会教育というよりは、さっき言った、友の会会長とか、文化協会会長とか、読むほうはわかりやすいほうがいいので、そういうぐあいに差しかえてもらったらどうかなと思うので。私が言うのも何ですけども。

では、そのようにお願いします。

はい。

それでは、ほかによろしいですね。

原案どおり決定ということでよろしいですか。

(「異議なし」と言う者あり)

それでは、原案どおり決定したいと思います。

それでは続いての報告事項に入りたいと思っております。

山本委員長

嶋津教育長

山本委員長

文化財課長

山本委員長

山本委員長

山本（明）委員

最初に、教育委員連絡報告事項について、何か報告をすることはありますか。

特に県の大会と三遠南信の報告ということになるのですが、山本栄子さんと私が県の教育委員大会に行きました。無事に、総会ですね。あと小牧城の石垣と、織田信長がどんなふうにお城のつくり方を変えていったかという、天守閣はそれまでではなくて、初めて天守閣をつくったということから、いろいろな説明でとてもおもしろい話でした。

嶋津教育長

ちょっとフォローしておく、要するに日本史の通説として、安土城で初めて天守閣がつくられたというけれども、それは違うというのが、その講師の話で、一番最初は小牧でつくって、岐阜城でつくって、そのノウハウがそのまま安土に行ったのであって、安土が全くオリジナルなもので天守閣ができた話ではないという提言をされていて。要するに、信長にとっての土木チームというのがあって、それが小牧、岐阜、安土と行ったのだという話で、とても僕としてはおもしろくて、なるほどと。そんなことでした。

山本委員長

あれも前は学芸員さんだった人が滋賀県立大学の教諭になったということで、「おたくも頑張ればなれます」と言われて印象に残って。そんな話がありました。

渡邊委員
金原委員

それでは阿智村のほうはどうでしたかね。

阿智村は満蒙開拓団。

オープニングで、初めて狂言というものを見させてもらったのですが、やはり僕らでは何を言っているのか全然わかりませんで、それ以上によかったなと思ったのが、中国残留孤児の帰国に尽力を尽くした山本元住職ですね。その人の活動はものすごい感動を受けました。近くには大鹿村という映画にもなった歌舞伎の村もあるそうなので、そこまでは足を伸ばすことはできませんでしたが、とにかく暑い1日でしたね。渡邊さん。

渡邊委員
嶋津教育長

はい。

阿智村に満蒙開拓団のお寺さんの山本住職の業績も含めてできたのです。それがことしの7月にできているのです。だから満蒙開拓団は長野県で圧倒的に多いわけだけけれども、村を挙げて行ったつらい歴史をきっちり残しておこうというので、この4月にそういう施設がオープンしたと。

運営が大変ではないかと思うわけです。あんな田舎村に結構人も配置してやると。しかし思いはすごく強くて、大地のある意味では、舞台になったところで、そういう点ではうまく継続してくれるといいかなと思っていますけれども、ぜひ折があったら行かれるといいと思いますよ。

山本委員長
嶋津教育長

名前は満州ですか。

満州開拓団、満州蒙古、満蒙開拓団という施設なのですよね。泣

けちゃう。写真もしゃべっていることも、インタビューの映像も、いかに自分の子供を殺したときに、3歳の子供の脳みそが、ばーんとはじいて出たとか、そういうのを泣きながらしゃべるわけですよ。ロシアにやられるというのでね。そんな話がありました。

山本委員長

山本（明）委員

ほかには。

学校訪問を私は7月に2回行かせていただきまして、中で和地小学校の校長先生がいろいろな施設統合に当たって、施設のいろいろあちらこちらのトイレが足りないとか、いろいろな話をされまして、その辺のところは、すごく問題を抱えながらいくのではないかなど。何もなくていくわけないとは思いますが、そうやって声を大きくしていただくということは、すごくありがたいと。黙って後になってから、いろいろな問題が起きるよりも、今から考えておけることがいろいろあるのだなということで、すごく違う側面から考えさせられました。

それから童浦小学校だったと思うのですけれども、プールの休憩室を壊して建て直してほしいという話があったのですけれども。あれというのは、私は「自分でできるのではないですか」と、すごく無責任なことを言ってしまったかもしれないのですけれども、どうなのですか。小屋が壊れているのではなくて、例えば、屋根の下がべらべらしているとか、屋根の出るところがべらべらしているとか、周りのペンキがはげているとか、そういうことはどうなのですか。直せますかね、自分で。

山本（明）委員

神戸小学校だった。何百万とかかると言ったのです、建てかえると。でも将来的なことを考えると、できるだけ保存する方法で。どこへ行ってもそうなのですから、建てかえてくれとか、そういうことがすごく多いと思うのですけれども、大きなお金が。それ以前にもっとできることはないかなど、そういう側面でやっていったらどうなのでしょうね。そのほうがお金はかからないので。それをすごく感じました。

それから、私は社会を明るくする運動という講演を7月12日に行ったのですけれども、何か私は失礼なことをして。「教育長がお見えにならないので来ました」みたいなことを言ったら来賓席に通されて、後から「あっ、違いました」と言われたのですけれども。教育長さんは欠席されるということだったので。前の縁台に行くところで、ちょうど私はストップされてよかったのですけれども、すごく恥ずかしい思いをしました。

保護司の方たちが何をやっているかすごく興味があったのです。要するに、犯罪で例えば、少年院に行ったとか刑務所に行った少年が社会に出たときに、保護司という人が1,000人に何人と決まっています、そういう人たちが地域にいて、そういう人の存在というのは、ほとんど私は知らないのですね。そういう犯罪を犯した人が更正す

るための後のヒアリングをしたりするというので、大変今難しいということですが、社会的には周りでもっと見守ってあげましょうみたいな感じの話だったと思います。

その後、作文が表彰されまして、最優秀賞が愛知県で2件あって、泉中学校と福江小学校の2人が載っているのですが、泉小学校の子が出てきまして朗読して、おとなしい子なのですが、内容がすごく、私はこれを読んでいてじーんと感動しましたので、これをもし広報に流していただければいい内容です。地域だからすごく周りで子供たちを見てあげるよとか、そういうことができている地域だから、これを素直に書いているのでいいなと思ったのですが、渥美半島はすごくいいなという感じがしました。

山本委員長

ほかに。

(「なし」と言う者あり)

山本委員長

ほかにはないようですので、次の学校規模適正化についての報告をお願いします。

教育総務課長

それでは私のほうから、小中学校の再編という形で説明をさせていただきます。

まず、5月から各いろいろな場所へ行って、住民の保護者の会へ顔を出させていただきました開催経過が書かれています。それと主な意見ということで大分圧縮をしておりますけれども、こんな意見が多かったということでまとめさせていただきました。

その中で若干ご報告をさせていただくと、裏面の2段目の伊良湖岬保育園保護者ということで、一番これから、この校区で関係がある保護者の方がまとめた意見ということで報告をさせていただきますと、伊良湖、堀切、和地の3小学校の統合に関しては、ほぼ全員の保護者が賛成である。小学校の統合先については、「新校舎ができるまでは和地小学校に」との意見がほとんどであった。その際に、「和地小に吸収合併でいい」という意見と、「和地小を新しい小学校の仮校舎として、そこで新しい小学校をスタートさせる」という意見が半々であったということで、和地小学校の名称を変えてしまって、伊良湖岬小学校などというような形でスタートしたらということでした。

それから伊良湖岬中学校については、福江中との統合より、赤羽根中との統合を希望する意見が大多数であったというようなことでした。

主な意見はそれといたしまして、それぞれの地区で中学校の移転については、若干もう少し意見を集約してというようなことでした。

その次に、要望書という形で渥美地域の8校区の校区会長さんの方々から、中学校の再編問題については、もう少し地域を広げて、伊良子岬、福江、それから泉と3つの中学校があるということで、

それを含めて検討していきたいというようなことで、こういった要望書が参っておりますので、それにもたれて中学校について検討していくということでございます。

その次です。伊良湖、堀切、和地地域の学校再編についてということで、これで8月5日に伊良湖岬中学校で3校区の住民懇談会ということで、この案にもたれて住民懇談会をやっていきたいということでございます。これまでの経緯ということで、この間、小中学校の再編について、3カ月の間、伊良湖、堀切、和地の各校区において学校を考える会など13回、延べ約490人の方々と意見交換の場を設けてまいりましたということで、その地域で出された主な意見は次のようでしたということです。

まず、一番目として、「小学校はほとんど統合に賛成であり、堀切、伊良湖、和地小を一本化し、和地小に統合させたい」という意見が多かった。これは一時的にということでございます。

それから、「伊良湖岬中は統合を進めるべきだが、移転先は赤羽根中に統合させたい」という意見が多かった。一方、「福江中でよい」とする意見も多かった。「中学校の統合については、渥美地域全体の課題となるので、渥美8校区での協議の場を設けるべき」との意見が出されたということで、先ほど言いました要望書が出されたということでございます。

それから、今後の議論のたたき台といたしまして、これまでの経緯を踏まえ、学校再編に向けて、改めて今後の議論のたたき台として、以下の方向を取りまとめましたということで、小学校の再編についての考え方ということで、堀切小、伊良湖小、和地小の同時期に一時的に統合する。年度といたしまして平成27年度。統合の際は新たな小学校としてスタートする。校名は伊良湖岬小など。

それから新設小学校の新校舎については、伊良湖岬中の跡地等を候補地とし、岬中の他校への統合にあわせて建設する予定であるが、引き続き、皆さんとの意見交換を重ねていくということでございます。

それから中学校の再編についての考え方でございますが、伊良湖岬中については、他の中学校へ統合を進める。具体的な移転先については、福江中への統合、赤羽根中への統合、その他の案などを踏まえ、引き続き渥美8校区との協議や、地域の皆さんとの意見交換を重ねていくという形で、このたたき台にもたれまして、8月5日に3校区の住民懇談会を伊良湖岬中学校で開催をさせていただくということでございます。

それから次に、伊良湖岬3校区の学校再編スケジュール案ということで、こんな形で進めていきたいということでございますが、先ほど言いました8月5日です。小学校再編の検討ということで開催をいたします。

それから小学校については、その後、各校区で意見集約をしていただいて、これは仮称でございますが、岬連合3校区の協議会というところで意見集約したものを決定していただいて、市の教育委員会へ意見要望という形で出していただく。それが秋にはそういった手続ができたならということでございます。

それから中学校の再編の検討でございますが、渥美地域8校区の会長会ということで、そこで検討するわけなのですけれども、検討案を提示して、各校区の懇談会で検討していただいたものを各校区意見集約をして、渥美地域の8校区協議会のほうで取りまとめをして、これも同じように市教育委員会のほうへ要望書を出してもらうというような形で、年初めというか、来年の1月ということで、そのあたりで取りまとめをしてもらうという形で進めていくという内容でございます。

以上です。

山本委員長

ありがとうございました。ただいま事務局から説明がありましたが、学校規模適正化について、質問がございましたらお願いします。

金原委員

この8月5日はどこでやるのですか。何時ぐらいから。

教育総務課長

これは岬中学校の体育館で7時から予定しています。できるだけ多くの方に、ここに来ていただいて説明ができたならというように思っております。

嶋津教育長

伊良湖と和地と堀切の3校区の校区長と役員と10人ぐらいで来て、雑談を交わしたのですけれども、彼らが一番頭を悩ましているのは、集まりが悪いのですね。この前も40人ぐらいしか集まらなかったとか。いくら呼びかけてもなかなか集まらない。関心のある人はあるけれども、ない人はない。特に子供のいないところは、余り関心がないという実態があって、8月5日も何人集まるだろうかと。普通でいったら200人とか300人ぐらい集まって当然だけれども、場合によっては100人も集まらないかもしれないと。そんな状況です。その一方で、声の大きい人は何人かいて、その大きい人が意外と否定的なことを言うと、そういう構造で、言わない人たちが結構賛成が多い。そういう乖離みたいなものを感じたりしました。

渡邊委員

3校区はいいけれども、8校区は大変ですよ。

嶋津教育長

特に一番大変は福江。要はこのままだと、中学校は赤羽根に行ってしまうわけですが、岬の意向としては。それでまずいのではないかとということで、福江のほうから火の手が上がったわけ。このままだったら、泉も野田と一緒に赤羽根かどこかへ行ってしまおうと。そうしたら福江1校だけになって、渥美がつぶれてしまうのではないかとこのところがあるわけですが。それでちょっと待ったという話になって、岬中を福江中に持っていくというのではなくて、例えば、3つ合わせて新しい学校をつくる。泉と福江中と岬中ということでやれば、ひょっとしたら赤羽根に行くという女の衆も、こちらを見てくれる

のではないかと。そういう可能性を検討してみています。そのためには、福江中へ移すというのが1案、赤羽根中に行くというのも2案、新しい学校をつくって、その新しい学校を、例えば、三角原の今の運動場のところにつくる案とか、役場の近くにつくる案とか、そういうものも少し教育委員会と一緒に検討してみて、それを提示して改めて中学校も渥美地域の中学校のありようとしてどうですかということをやらなくてははいけない。

特に福江中はね、委員長にお願いしておきたいのは、まだ人数もいるし、痛くもかゆくもないのに岬の都合で、泉の都合で何で動くことになるのかとか、そういう話にもなりかねないです。将来的には、あそこも減ってくるから、今のうちに新しいのをつくろうよというのは僕らとしては理由があると思うのですけれども、「何だ、火の粉がこちらへ降ってきたか」みたいな話になると運営するのが大変だし、なかなかまとめるのが大変なわけですよ。PTAにしても自治会にしても。そういう点では、ぜひ福江校区会長さんや亀山校区会長さんにサポートしてもらえるとありがたいかなと。唯一の教育委員だからね。

山本委員長

私たちは、市役所の辺に1つできると、福江中も減っていくということなので、あそこに1つできると、みんなが足を常に運んでいる場所だから、違和感はないから、あの辺にできることはいいのかなという話がありますけどね。

嶋津教育長

そういう話でおおむね決まれば、教育委員会としても、その方向で進めることができるかなと思っていますけどね。

山本委員長

人数が本当に少なくなってきて、赤羽根中も少なくなってきて、バランス的には伊良湖岬中との人数のバランスがいいと思います。

山本（明）委員

済みません。伊良湖岬中学校の保護者が、何で赤羽根がいいのかというところをはっきり言えますか。

教育部長

低いということですか、福江中学校の土地が。

山本（明）委員

それ以外の理由として、今、福江中学校で問題なっているとか、そういうことを地域の人を知っていたり。

教育部長

それも1つの理由です。

山本（明）委員

そういうのは母親としては、嫌だなと思いますけれども、それがすごく多いのか。

嶋津教育長

ただ、こういうぐあいになりたいと思っていますのです。今までアンケートをとったり、いろいろな意見が生の情報でいっぱい来ているわけです。その中には、はっきりと「福江中は荒れているから嫌だ」というのを書いている人が何人もいるわけ。だから、それを全部オープンにしようと思っているわけ。見たい人はどうぞ見てくださいと。その上で決定しました。一番圧倒的に多いのは、6メートルの水の高さが低いではないかというので、それが基本的には、多分書くほうも遠慮して、福江中は荒れているから嫌だとか、そういうこ

とを書くのをはばかりる人はいるわけです。それが水に出すということもあるし、本当に水のことを心配している人もいる。いずれにしても水のことが第1番目の意見、2番目に荒れているというのがあって、それは書かれているから、公の場所では、問われれば言わざるを得ないと思っているすわけです。その資料は出すと。生情報は全部出すと、情報公開をします。そういうスタンスでいくものですから、皆さんの発言も、そういう感じてしゃべってもらってもいいかなと思っています。

山本（明）委員

それは泉中学校も同じことが言えると思うのです。泉中学校は低いじゃないですか。福江中学校も低いじゃないですか。泉中学校の人が福江へ行く理由は全くないじゃないですか。

山本委員長
教育部長

今の市役所の辺につくるかというのがありますよね。

泉中学校は津波の浸水区域に入っているのです。ただ、福江中学校は浸水区域には入っていない。ただ市民の皆さんが言うのが、想定外があるのではないかと。要するに災害というのは想定外があるからこそ起きるのだと。だから低いところには行きたくないという、それが論法ですね。防災対策課が出している地図上では、最大限の被害があった場合ということで色が分けてあるのですが、その中の福江中学校には入っていない。浸水区域に入っていないのですけれども、それでも危ないというような気持ちというのがあるのですね。

山本（明）委員

福江中学校の近くに高いところがありますか。

山本委員長

市役所の支所。この間、山本明子委員がお話を聞いた。

山本（明）委員

かなり遠くないですか。

教育部長

福江は浸水区域ではないです。要するに福江中学校自体はここです。

山本（明）委員

山といたら支所しかありませんよね。

教育部長

一番高いのは支所です。

山本（明）委員

例えば、10メートル以上のところとか。

山本委員長

福江中学校は保健のほうの救急の拠点になっていませんか。

教育部長

それはなっていますね。

山本（明）委員

私は東北のほうの三陸沖を見に行っただけなんですけれども、水が湾の中に入って、わっと膨れて川をざっと行ったという、テレビで見たりとか、そういうところは。

教育部長

それも一応加味してあるのですね。

山本委員長

それはそうですけれども、戻ってきたのが入って、一回湾に入ったのが戻ってくるという。

山本（明）委員

川かなんかがあったりすると、そこに水がわっと。

教育部長

高さは全然違います。

山本委員長

いろいろ、それだけではなくて、人間性が違うとかいろいろ。気質が違うとか、そういうことのほうが多いのではないかな。通うのに

教育部長 便がいいとか、そういうのがやはり。
山本委員長 そういうのもあります。気質の違いというか、人間的な。
金原委員 本当が一番なのかなという気がします。
嶋津教育長 何で赤羽根が人気になるのですか。
教育部長 金原さんがいるからでしょう。
これは同じぐらいの人数ですよ。ちょっと赤羽根が多いですけども。

教育総務課長 対等に合併できるのではないかというのがありますね。
金原委員 対等合併ね。
教育部長 福江だと吸収というような格好になるのですけれども。
金原委員 やはり吸収という言葉が嫌いですのでね。
教育部長 どっちか選べといったときのあれですよ。どっちかだったら赤羽根のほうが良いという。
特に堀切、和地だったら赤羽根のほうが近いです。

山本委員長 道路とかも本当に近いですよ。
教育部長 ただ、伊良湖のほうがだと福江のほうが近いものですから、福江という意見もあります。

山本委員長 これはウエルカムなのですか、来てください、来てくださいという感じですよ、福江は。そのほうがやはり。
嶋津教育長 ざっと先細るから。今120人だけれども、ずっといって80人ぐらいになってしまうわけだから。福江中学はどんどん少なくなるわけですよ。泉も伊良湖も18人になってしまうわけだから。全部合わせても120人。その点、赤羽根はしっかりしていて、何年たっても50人弱ぐらいのしたたかに数字はキープするから。これは強いよね。

山本（明）委員 いつごろまでに、中学校の場合はもう準備をやっていくという形でなっていますか。
嶋津教育長 ではなくて、ことし決めてもらったら、8校区の各校区で議論して、また8校区でまとめて決めて、教育委員会のほうに案が出てくるわけですよ。
そうしたらもう従来の路線、30年に岬中を移動させて、32年に新しい小学校を岬中の後に持ってくる。

山本（明）委員 30年といたら5年後ですよ。
嶋津教育長 そう。すぐだよ。
山本委員長 岬中はどちらかに。
嶋津教育長 岬中は福江中へ行くか、赤羽根中に行くか、それとも新しいところに行くか。そういう案に議論されていると。この前、校区長たちと話をして、新しいところをつくって、吸収じゃなくて新規の学校をつくろうじゃないかという意見が強くて。ただ、お金がどうなるか。お金が市にあるかなど。それが一番、彼らにしてみると心配。お金がなければ全く意味がないものだから。

金原委員 これは山本課長、和地、堀切が仮に赤羽根に来た場合でも、受け

山本課長
山本委員長

入れは可能な。

それはだめです。赤羽根中はだめです。

あの建物は使えないのですね、市役所の。そうすれば、あの頑丈な建物。

嶋津教育長
山本委員長
教育部長
山本（明）委員
嶋津教育長

お金も少しで済むかもしれないね。

プールもあるし、体育館さえあればという感じもありますけどね。

それも頭の中に入れて検討しようかなと考えております。

それが一番いい感じがしますよね。新しくつくるよりも。

明子委員が言われるように、福江中ということになると、泉だつてわざわざ今の福江中に来るかということ、嫌だと。だったら赤羽根に行くとか、田原へ行くとか、そういう選択肢が出てくるかなと。渥美町ということを見ると、やはり新しいものをつくるしかないかなというのが、この前の校区長たちの雑談の話がありました。

山本委員長

そういう話を出すと、またみんなの気持ちが変わってくるかもしれないですね。

嶋津教育長

だから8校区長、特に福江校区会長さんあたりは、そういう案を出せば赤羽根に向いている勢いも、こちらへ来てくれるのではないかという期待があるわけ。でも出してみた結果、嫁さんたちはやはり福江が嫌だということもあって、赤羽根にしたいとなるかもしれないしね。

山本委員長

あそこはみんな、逢坂を越えてお買い物にみんな来るし、常に通っているし、あそこにはいろいろなお店があるので、違和感はないと思いますけどね。

嶋津教育長

そう思うよね。中には、福江高校をつぶして、そこへつくってはどうかと。みんないろいろやっていますよ。

山本委員長

福江高校がなくなると困るので。福江中学校から60人、70人行っているのかな。

渡邊委員
教育部長

ただ、つくった場合に、名前は福江中ではないですよ。

もちろん。新しく渥美中学とかいう意見が出てくると思います。これからですけどね、それは。

嶋津教育長

そういう名前まで提供しているペーパーがあるのですけれども。「絶対新しい名前にしてください。渥美中学がいいと思います」というアンケートなんかもあります。

山本委員長

それではいろいろ意見が出まして、まとまっていませんけれどもいいでしょうか。

嶋津教育長

それで、さっき言った、たたき台というのが決まる。これが事実上、伊良湖岬小学校についての方向性としては、これでいくということでおおむね決まってきているのですよ。そのことと、中学校は全体でやるという話については、近いうちに記者発表すると。だから新聞にも大きく載ったりするのですね。そういうことで、皆さんのほうにもいろいろ問い合わせがあろうかと思うのですけれども。

その事情と、一番の山場は8月5日に再提案する、それで改めて校区からの最終的な要望書という形で、秋から冬にかけて出していただくと。それで決定するという。この教育委員会で決定するというプロセスですのでよろしく。頭に入れておいていただきたいと思います。

山本委員長

ありがとうございました。

それでは次の、田原市中学校総合体育大会の結果について、報告をお願いします。

学校教育課長

1枚めくっていただきますと、総合体育大会の成績一覧が出ております。こんな形になりましたので、ごらんください。

以上です。

金原委員

これは空白のところは、例えば、バスケットボール女子の場合は2校しかないということですね。

学校教育課長

そういうことです。

山本委員長

これは見ていただいてということでもいいでしょうかね。

それでは次に、中学校の寄附についてお願いします。

教育総務課長

4番目です。毎年というか、毎回というか株式会社河合組さんから、野田小学校のほうへ、教育活動支援充実のためということで、ことしも30万円の寄附がございました。これにつきましては、9月補正で上げまして、予算化していく予定でございます。

以上です。

嶋津教育長

これは親父さんが死んで、また息子の会社としてずっと出し続けるということ。

事務局

去年1回やめましたね。

教育総務課長

一回、はい。

山本(明)委員

これは毎年くれるということですか。

嶋津教育長

その病気か何かの関係でやめたのかね。

教育総務課長

そこら辺は把握しておりません。

金原委員

この豊橋ベンチャークラブというのは何ですか。

教育総務課長

ここもいつも本を寄附してくれているところです。

金原委員

どういう組織ですか。

教育総務課長

これはNPOの関係だと思いますけれども。こういう本をやっているような団体だと思いますけれども。毎年くれているのですけれども、調べてみます。

金原委員

田原市内だけではなくて、豊橋や豊川もやっているのですか。

教育総務課長

そのとおりです。

山本委員長

ほかには質問は。

(「なし」と言う者あり)

山本委員長

ほかに質疑もないようですので、次の5のその他に移りたいと思います。

給食センター所

それでは、給食に関するアンケートをご報告させていただきたいと

長

思います。

この案件は、最近はどういったアンケートはとっていないくて、過去はわかりませんが、比較をするものは今のところありません。内容的には給食そのものについてアンケートしました。食育の関係はまた別に調査あるものですから、ここでは重点を置いておりません。

センター関係の小学校の5年生、中学校2年生、約300人ほどに回答をいただきました。目立ったところだけ紹介させていただきたいと思います。

問1のところで、「給食は好きですか」との問いに、「大好き」、「好き」が70%以上ありました。

問2では、「給食の味はどうですか」の問いに、「おいしい」、「まあまあおいしい」を含めて80%以上でありました。はねていただいて問5、「嫌いなものは何ですか」というような質問に対しては、野菜類が圧倒的に多かったです。

はねていただきまして問8のところでは、「食缶のおかずで好きなものは何ですか」というようなところで、カレーライス、ハヤシライス、スパゲッティという、想像されるようなものが上位になっております。それと麻婆豆腐というのが目立って人気があります。一方、次のページの問8の、「食缶のおかずで嫌いなものは何ですか」という中で、八宝菜が飛び抜けていて、ちょっとこれはびっくりしております。あと煮物が目立つ傾向があるかなと。煮物と豆のおかずが多いように思われます。

問9で、「バットのおかずで好きなものは何ですか」というようなところを見ると、いろいろな意見が出ておまして、目立つところでは、から揚げとかビビンバ、フルーツカクテルが目立っております。ビビンバは最近のメニューであります。

問9のところで、「バットのおかずで嫌いなものは何ですか」ということで、トップは海草サラダで、ちょっとこれにはショックを受けております。あと、魚がやはり目立つということでありました。その魚の左隣に厚焼き卵がありまして、これも予想外の多さでありました。

問10のところで、「地場産物の言葉を聞いたことがありますか」と、問11で「地場産で知っているものは何ですか」と、この辺で知っているという回答が予想より少ないなど。作物の種類も余り出てこなくて、この辺はもう少し宣伝をしていかなければいけないかなと思っております。

このアンケートを今後継続して、小学校5年生、中学校2年生に継続して調査を行って、新センターの数値ともあわせながら、今後、参考にしていきたいというように考えております。

以上です。ありがとうございました。

<p>嶋津教育長 給食センター所長</p>	<p>食缶とバットって。 食缶は、おつゆとかカレーとか主食なのでけれども、液状のものでも対応できる深い容器です。バットというのはちょっと浅くて、フライを入れたりとか、そういうもので、ちょっとここで食缶、バットという分け方ですけれども、それに出てくる品物が大体決まっておりますので、そこで分けて、食缶で使えるメニューは何か、バットで使えるメニューは何かというようなところを考えて分けさせていただきました。</p>
<p>嶋津教育長 給食センター所長</p>	<p>バットって英語。要するにどういう意味かという感じの。これは子供たちも食缶とかバットという言い方をするの。それとも専門の料理をやる人たちが使う言葉として食缶、バットというのか。 ある程度は子供らも知っていると思いますが。</p>
<p>山本委員長 給食センター所長 嶋津教育長</p>	<p>大きなお皿と小さな皿か、子供はどうですか。 給食当番の配膳をするときに、役割分担をするときに、こういう言葉を使います。食缶の人、バットの人と。 これが要するに市民に公になったときに、市民がぱっとわかるかどうかという話ですよ。自分たちだけの世界でわかる話ではなくて。そこだけで表現を変えて。バットに対してはミットぐらいしか思い出さないの。</p>
<p>給食センター所長 嶋津教育長</p>	<p>調理器具ではバットは普通に使われるようです。 ちょっと今後も工夫して整理してもらえると。</p>
<p>給食センター所長 嶋津教育長</p>	<p>それからもう一つは、196人の小学校6年生に聞いているわけだよね。ところが5番目、問5を見てもらうと、嫌いなものは野菜というのが199人が野菜が嫌いだと言っているわけです。何でこんな数字がふえてしまうのかなというか。</p>
<p>給食センター所長 嶋津教育長</p>	<p>これは幾つでも挙げてくださいというような説明を。 196人しか母数はいないわけです。いくつ挙げても、マックスを超えてしまっているから、何か数字の間間違いだと思っているので見てほしいのと、もう一つは、何かどこかにうそがあるのかなと思うのは、「給食は好きですか」というのは、圧倒的にみんな、「大好き」、「好き」、「普通」で、「嫌い」な人は7名、「大嫌い」が1人で、例えば、小学校5年生は8人しか「きらい」、「大嫌い」はいないわけ。ところが野菜が嫌いな子は全員野菜嫌い、果物嫌い、キノコ嫌い、魚嫌い。これだけ嫌いなものがありながら、給食が好きだというのは、何か子供たちにこういうぐあいに書けば先生が喜ぶかなとか、まずいと言っては悪いかなとか、そういう気遣いみたいなものがあって、額面どおり信じられないのではないかなという心配をするわけ。これだけ嫌いなものがいっぱいあって。だから、うれしいのだけれども、</p>

ひょっとしたら子供の作意が入っていないかということを書いて、余りぬか喜びに喜んだあげくに嫌いなものが山ほどあります。嫌なものが山ほどありますというのは、どうもこれは不自然だなというぐあいに思うのですが。

山本委員長
嶋津教育長
山本委員長
嶋津教育長

給食は楽しみという意味の。

そういうのはあるよね。授業を受けるよりは楽しいと。

1日で一番楽しみなのは給食みたいな。

そういうコメントみたいなものを入れておくと信憑性が少し出るともかもしれないし。このまま額面どおりで受け取るとしたら、きれいごとには過ぎないかなということをやっと心配してしまいますが。

山本委員長
嶋津教育長

給食の時間は好きですか。楽しみですかとか。

この前、学校訪問へ行って、やはり給食はみんなうれしいし、食べると、僕らが食べてもおいしい。金原さんだけが鳥が出ないことをと、基本的にはおいしいなと思っているものですから、できるだけ「好きですか」の数字は信じたいと思っているけれども、各論に入ると全然矛盾するなど。

山本（明）委員

料理の仕方によって、例えば切り方とか、野菜が大きいままピーマンが入っている八宝菜なんかは嫌だなど思っても、細かくしてピラフの中に入っていると全然おいしく感じるとか、そういうのがあるのと思うのです。

嶋津教育長
山本委員長

それもあるかもしれないね。

子供は学校では食べてくるのですね。嫌いなものでも学校では食べてくるので、無理やりもあるけれども、食べてくるので。野菜は嫌いだけれども学校なら。家では食べないけどというのがあって。親としては食べてもらったほうが。学校で野菜を食べてくるのでというところもありますけどね。

嶋津教育長

そうすると、さらにいい話で、要するに普通は嫌いな子も、給食の料理の仕方ですべてみんな好きになるということが言えれば、つくっている人の励みにもなるし、センターにとっても自信にもなるよね。

給食センター所
長

野菜を小さく切るといのは、食べにくいところを考慮して、そういうようなことを。ちょっと見た目が余りよくないですけども、食べやすいような工夫はしています。

山本（明）委員
山本委員長

だって、ワカメサラダが嫌いという人がこんなに多いのに。

あと、給食が少ないという子が中学校で3割あるので、これは量はふえたりするのですかね。

給食センター所
長

多い意見もありますし、ちょっとこの辺はどうすればいいのか迷っています。

山本委員長

うちの子のときは、よく食べるクラスは給食のおばさんがたくさん、おかずを。クラスによって食べないところは量を減らすとか、そういうのでみんな調整していたのですけれども。

給食センター所長	中学生のいつも少ないというのは、ちょっと目立つと思いますので、この辺は少し品数も今度ふえますので、カバーができるかなと思います。
嶋津教育長	この前、学校訪問へ行ったときに、どこの学校か忘れてしまったけれども、入ったら、一たん配られた後に一斉に立ち上がって、何人かがどどどと、また行くわけです。何をしに行ったというと、たくさん食べたい人は余っていますからどうぞみたいなのがあって、それで食べるというのをやると、今の中学生はお腹がすくなということが、普通は余分につくったりして消化できるじゃないかと思うと、それでも足りないぐらいに少ないと思っているのなら、やはりその問題だよ。
給食センター所長	小学校でも低学年、中学年、高学年と量が一応分けてあります。小さい子は食が細いと思いますので。中学生になると男女間、結構男の子がもっと食べたいというようなことは、現場では聞いていますけれども。
嶋津教育長	何にしても、まとめ考察のところ、きょう出た意見みたいなものを踏まえて、もう少しつけ加えとか、フォーするとか、そういうようにやるといいですね。
給食センター所長	はい。検討します。
嶋津教育長	これはどういう扱い方をするわけ。例えば、各学校に配るとか。
給食センター所長	今後、校長会等で報告をしていきたいなと思います。
嶋津教育長	これを全部出すということね。
給食センター所長	はい。
嶋津教育長	だったら少し、しっかり検討するといいですね。
山本委員長	では、図書館のほうにお願いしたいと思います。
図書館長	これは市制10周年で実施する記念事業の1つなのですけれども、図書館と、主に図書館にかかわるいろいろな団体の皆さんが中心となりまして、田原まちほん実行委員会というのをつくりまして、田原まちじゅう本想いというのを11月16日、17日と2日間にわたって文化会館などで実施をいたします。その協力者募集のための最初のリリース分ですね。これを今、図書館のホームページにもダウンロードできるようにしてあるのですけれども、ここにありますように、「一箱古本市」ですとか、ちょっと名前を見ただけではどういう事業か想像ができないようなものもあると思うのですが、「ブクブク交換」とか、「ふるさと怪談トークライブ」。
	それから幾つか市内に書店さんがあるのですけれども、そういう書店さんに協賛事業をお願いしたいということでお話をしているのですけれども、その中で最初に手を挙げてくださった豊川堂さんが「本

っていいじゃん！」ということをやるということで、この中に挙げてあります。

その中にも幾つか今動いているものがありますので、下の青い囲みの中に講演会、出張移動図書館と書いてありますけれども、こういうものも動いているということで、また追って詳しい内容は、さらに別の方法でPRしてまいりますし、最終的には10月1日の広報たはらに掲載をする予定ですけれども、最初のリリースをこういうような形でいたしましたというご報告です。よろしくお願ひいたします。

山本委員長
図書館長

何かご質問はありますか。

もしかすると参加のお声をかけさせていただくかもしれません。声をかけさせていただいた皆さん、ぜひ拒否しないようにお薦め本を1冊持ってお越しただければ。

山本委員長
図書館長

これはどこかに張ったりとか、これも張ったりするのですか。よくスーパーとかに張っていますけれども。

まだそこまで、この段階ではやりません。これはどちらかという実行委員をやってくださる方とか、あと出店をしてくだりそうな方に手持ちでお願いを、委員のみんながしに行くためのペーパーということです。一応ホームページからダウンロードできるようにはしていますけれども、まだ大々的に配ったり、張ったりというのはしていません。

金原委員
山本委員長
図書館長

スーパーあつみにこういうのがあると。

あるとね、みんなが見るのですね。

精文館のほうもポップや何かを使ってやろうかなというような話はしてくだっておまして、何らかの形の協力というのはやってくれと思います。

山本委員長
学校教育課長

いいでしょうか。では、いじめの関係はどうですか。

これからサポートセンターができますので、一応表は学校教育としてどうしたらいいのかということでまとめたものです。後は教育長からの資料と、いじめ防止対策法案ができましたので、その概略をつくったものと、サポートセンターの組織図がつけてありますので、それを資料としてお持ちいただいて、向こうのサポートセンターがどう考えているかということで当たりますので、鋭く語っていただけたらありがたいなど。

以上、資料です。

山本委員長
生涯学習課長
山本委員長
文化財課長
山本(明)委員
文化財課長

それでは、生涯学習と文化財課のほうは。

特にございません。

ありませんか。

いいです。

文化財課さん、今何をやっているか教えてください。

現在、昔の暮らし展ということで、懐かしのラジオだとかテープ

レコーダーとか、昔使ったよねというようなものを展示してあって、ちょっと昔の自分のことがよみがえりますので、昔の暮らしの展示を現在はしております。9月の初旬まででございます。

きょうお知らせできないのですが、その後、いよいよ特に力を入れている10周年の特別展、企画展のシリーズが始まりますので、その第一弾が9月14日、田原のお祭りの日なのですが、渡辺華山に関する花・鳥・動物ということで、非常にきれいな絵を今集めつつあります。それが10月14日までの間、次のときにはきれいなチラシをお配りしますが、非常に逸品ばかりを真剣に集めておりますので、それが第一弾であります。

その後は10月19日から1カ月ちょっと、国宝を借りてきて展示するというのが約1カ月間続きます。

最後に正月にかけて松林桂月という、渡辺華山から見ればひ孫弟子に当たる作家の展示が控えております。それも1カ月ちょっとということで、3つ続きますけれども、次の会のおきにお知らせをできると思います。よろしくお願ひします。

渥美のほうは何もやっていなのですよね。

渥美は10月に渥美の企画展として、愛知県の中に風景の会という作家の集まりの会があるのですが、風景の会。ずっと今まで豊川の美術館のほうでやっていたのですが、たまたまことし田原会場ということで、日にちを忘れましたが、10月の時期に渥美の資料館のほうで企画展として風景の会の作品展示をする予定でおります。

以上です。

あと、嚶鳴フォーラムの話は前にやりましたか。

嚶鳴フォーラムの話は、まだ資料が提供できておりませんが。嚶鳴フォーラムというのは今準備中でありまして、嚶鳴フォーラムというのは、北は釜石から南は沖縄までの全国14都市で構成される嚶鳴協議会というのがありますが、田原市も入っているものです。10周年を記念して、その協議会の中では第7回に当たる嚶鳴フォーラムとして、10月25日、26日にビューホテルと、2日目は田原の文化会館のほうで嚶鳴フォーラムin田原ということで開催をさせていただく予定で今準備を進めているところでございます。

1日目は市長サミットを中心に展開をされまして、作家の童門冬二先生にも来ていただいて、講演会のほうを含めてやるのが1日目になります。

2日目は田原文化会館のほうで、まず初めに、中部小学校の華山劇から始まります。ふるさと劇ですね。ということで歓迎劇ということで始まりまして、元NFKのアナウンサーの松平定知さんの講演、同じく童門冬二先生の講演に加えまして、吉田公平先生という東洋大学の名誉教授の方がいるのですが、そのお三方でミックスしたパネルトークということで展開をしてまいりますので、それが2

山本（明）委員
文化財課長

嶋津教育長
文化財課長

日目の26日、土曜日の嚶鳴フォーラムということで、次のときにし
っかりしたチラシでお願いをしたいと思います。

以上です。

嶋津教育長

その関連もあって、来週の金、土、日、沖縄で嚶鳴フォーラムの
こどもサミットというのをやるのです。華山の作文に当選した子た
ちを、中部小の6年生を2人連れて遊びに行ってきますので。

山本委員長

いいですね。

あと、この運動会の体育大会の。

教育総務課長

一応この中で、また皆さんで日にちを予定していただいて報告を
していただけたらと思います。あと行事予定の学校訪問も今回追加
をさせていただいておりますけれども。

山本委員長

ほかには何か。よろしいですか。

(「なし」と言う者あり)

山本委員長

それでは、本日の議事等はすべて終了いたしました。

これをもちまして、田原市教育委員会第7回定例会を閉会させて
いただきます。ありがとうございました。

閉 会 午前11時20分